

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871900429
法人名	特定医療法人 つくばセントラル病院
事業所名	グループホーム たいせつの家
所在地 (電話番号)	茨城県牛久市上柏田1丁目17番20 (電話)029-830-8633

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年4月8日

## 【情報提供票より】(19年11月26日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 13 人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	個別により 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人 つくばセントラル病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体である病院の院長の考えは『大切な人』のホームだから『たいせつの家』とネーミングして設立されたグループホームである。そのような理念の基により質の高いケアを目指し、管理者とともに職員が利用者を尊重し良質な介護を提供するとともに家族会の発足により家族のケアも行っている。自治会への加入、敷地内のクローカー場を地域に開放する等により地元との交流が密である。納涼祭を隣接する特老、デイサービス利用者、家族、地域住民と共催し、毎年お互い楽しんでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題は、危険物の保管、ケアプランに関してであったが、その後職員と検討し危険物の保管は棚を設置、ケアプランのモニタリングをきちんと行うことにより改善したことが今回の評価で確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関して全職員と会議を重ね取り組んだことが管理者、職員の聞き取りから確認された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に一度施設長、管理者、主任、主任代行、家族会代表、区長、民生委員と開催するも記録に残していない。会議内容は口頭にて職員に伝達している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、書面にホームの苦情窓口担当者、第三者の電話番号を記載している。面会時電話にて利用者の状況を伝えている。家族会を発足したことにより意見の言い出しにくい家族に配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し自治会主催の夏祭りや敬老会、お餅つき大会に参加。またホーム敷地内のクローカー場を地元へ開放、毎年納涼祭の参加呼びかけや開設3周年記念を盛大に開催した。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほかに施設長、管理者、計画作成担当者と作り上げたホーム独自の地域密着を目指した理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の異動があったため確認のために朝の申し送り時に読みあわせを行い、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭り、敬老会、餅つき大会等に利用者と参加。ホーム主催の納涼祭、開設3周年記念に家族、地域住民に呼びかけ積極的に交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関しては職員が初心に戻るという点でいいことだと管理者、職員が感じている事が聞き取り調査から確認できた。前回の改善点に関し危険物の管理は棚を設置、ケアプランは何回も職員と会議を開催し改善に努めた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、施設関係者、利用者家族、区長、民生委員参加の下開催している。会議内容は口頭にて職員に伝達している。	○	会議内容をきちんと記録に残し、職員との共有に努められたい。

茨城県 グループホームたいせつの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月介護相談員の訪問があり、利用者の意向、介護相談員の対応、施設側の対応、回答が記録として残され、市に報告している。中学生の体験学習の場、看護学生の研修の場として提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時、電話にて利用者の状況を提供している。金銭管理に関しては毎月確認し押印している。職員異動は年4回の広報にて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情は意見箱の設置、重要説明事項にホームの苦情担当窓口、外部の担当窓口を明記している。家族会を発足し意見を聞くように努めている。過去1例の意見が出たが報告書にて対応、分析、改善策、管理者の指導内容が記録されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年につくばのグループホームを開設するにあたり、ぜひ職員の指導を仰ぎたいと切望されたので数名の職員の異動があり少し戸惑いを見せる利用者もいたが、すぐに解消された。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員に対しそれぞれに見合った研修に参加できるようにしている。研修後はレポート提出と月1回の定例会に発表、勉強会を開催し全職員に周知している。研修参加費が法人から出るので参加しやすい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ケアマネ会等に参加し事例問題を共有し、お互いのケアの質の向上に取り組んでいる。今後はつくば、牛久市のグループホームとの交流を考える予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望に関しては、家族、利用者と面談、事前アセスメントの把握、体験宿泊(2-3泊)、職員や他の利用者とのなじみの関係を作ってから入居を勧めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫の得意の利用者には雑巾を縫ってもらったり、他の利用者のズボンのすそ上げをお願いをする。食器洗いは自分と決めている利用者にはお願いをし、夫々が役に立っていることを認識してもらうように支援し、その時々感謝の言葉を伝えるようにしている。役割分担表にても認識してもらうようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者の希望に沿うように努めている。たとえば買物に行きたいという利用者と買物に出かけ一緒に喫茶店でコーヒーを飲むときもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、利用者の意見や要望を聞いた上でカンファレンス会議で日ごろ利用者について気づいた点を検討し介護計画を作成し全職員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った経過内容の記載、ケアチェック、担当者会議の要点からモニタリングを行い、短期、長期を設定し見直しを行っている。変化が生じた場合は現状に応じた計画を作成するようにしている。		

茨城県 グループホームたいせつの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度化した場合の受け入れ先を協定書を取り交わし確保している。医療法人としての機能をいかしたケアに取り組んでいる。ショートステイの認可を受けているが現在は満床である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から往診が毎週ある。病院にいかななくてもホームからオーダリングで利用者の受診内容が把握できるようになっている。(重要事項のため普段は施錠している)家族が付き添ってのかかりつけ医への受診時は様子観察ノートに記載のほか受診時結果記録、ホームで介護する立場から心得るべきことを記載してもらい、家族、職員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内にターミナルを行っている緩和ケア施設があるため、現在はそちらと連携をとっている。今後に関しては家族の希望をとって十分な話し合いが必要だと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念のひとつである”自由性を尊重し自由とプライバシーを確保する”と掲げ、利用者の尊厳に努めている。昼食時、職員の声かけも丁寧であった。面会時の家族との話し合いは事務室や利用者の居室にて行っている。広報誌の写真に関しては承諾を貰っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく利用者のペースでの生活を送っている。食事に2時間を要する利用者にもきちんと支援されていることが昼食時に確認された。		

茨城県 グループホームたいせつの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成しているが、利用者と一緒に野菜の皮むき、食事の準備、片づけをしている。食卓を囲み職員と利用者の会話が弾んでいた様子が昼食時に確認された。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ毎日でも入浴可能である。夜勤帯は夜間当直の状態を考えると無理ではあるが、それ以外の時間帯の入浴は可能で希望に応じて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎晩晩酌、買物のあとの喫茶店、図書館に行き本を借りる、レンタルショップで映画のビデオをかりる、外食、日帰り温泉旅行や散歩、畑仕事、裁縫、習字等、掃除、洗濯たたみ、食器洗い等、利用者の生活歴、趣味を把握し役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前述の24と同様に希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、外部からの進入防止のためにセンサーによりメロディーがなるようになっている。家族に対して了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導で年2回の訓練を夜間想定を含み実施し、記録に残している。今後は地域と合同の訓練を開催予定している。災害時の非常食等の備蓄は職員、利用者分あわせ3日分の確保をしている。地域住民に対しても提供できるように体制をとりたいとのことであった。		

茨城県 グループホームたいせつの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて、食事量、水分量を把握している。台所に利用者の状態を記載し、医師、管理栄養士の指示の下、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調査日がクリスマス前であったため利用者がリハビリを兼ねて製作した装飾があった。完成度の高い作品をかざり、利用者の意欲を引き出すようにしている。天窓により開放感のある廊下のソファに座り利用者がのんびり外をながめていた。畳の腰掛があり場面場面に応じて並び替えができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、籐いす、鏡、白に統一された家具等、時計、家族の写真、職員手製の写真入れ、カレンダー、趣味の習字等があり利用者にとって安心できる居室になっている。		